

お地蔵様



長母寺の山門と本堂(筆者撮影)

星が丘キャンパスの白梅館の前庭に、お地蔵様が祀られています。横に立つ『由来』に次のように記されています。

「創立功労者吉森梅子先生が、明治三十九年長母寺から譲り受けたもので、寛文八年の銘があり、三百余年前の作で、美的に単純化され、量感、品格、温容は他に類例のない傑作である(後略)」

このような由緒あるお地蔵様を譲り受けることができたのはなぜか。第二代理事長の小林慶一郎先生は次のように記しています。

「この地蔵様は……長母寺の……織田住職さんと吉森先生が正月のある日カケ事の様に本年中に必ず高等女学校の許可が下りるなら、此庭にある地蔵様を下さいと約束して、其の後東奔西走初代校長を援け其年の五月一七日(この日が開校記念日と成って居ります)許可が下り約束通り戴いた希望達成のお地蔵様です」(昭和三十三年『桜の実』より)



白梅館前庭の吉森地蔵(筆者撮影)

長母寺は1179年に創建された由緒ある寺で、今も矢田川のほとりにあります。立派な山門を入ると、文化庁の「登録重要文化財」の銘がある重厚な趣の本堂があります。

境内には数多くのお地蔵様がおられ、長く風雪にさらされた佇まいをしていますが、ほとんどによどかけがかげられ、なかには赤いマフラー姿のお地蔵様もおられました。

は、羽織り袴姿から、戦中のもんぺ姿、そして今の淑徳ブルーの制服と、それぞれの時代の生徒たちを、108年にわたり見守ってきました。

吉森梅子先生(創立者小林清作先生の義母)の学園草創期における気概を伝えるお地蔵様、母なる大地の慈愛に満ちたお地蔵様が、これからも学園をお見守り下さることを、感謝を込めて、お祈りしたいと存じます。

「生みなさぬ ものとてはなし
土の徳 今日もひとしおに 仰がるるかな」(古歌)

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文